

「コケイン症候群」家系の相補性群

岡 田 善 雄

(大阪大学微生物病研究所)

コケイン症候群患者の皮膚線維芽細胞は紫外線感受性で、照射後細胞の DNA 複製 (定期 DNA 合成) が障害される特徴を示す。有名な色素性乾皮症細胞は紫外線照射後の不定期 DNA 合成に欠損を示すが、コケイン症候群では正常レベルにあるという違いがある。

本研究では Camden の Human Genetic Mutant Cell Repository から分与をうけたコケイン細胞株 CS3BE, CS7SE, および CS1BE について相互に融合させ、定期 DNA 合成機能欠損の回復する組合せのあることが確認された。すなわち CS7SE と CS1BE の 2 株が同じ群に入り、CS3BE が異った相補性群を形成する。

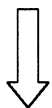
文 献

- 1) Genetic complementation groups in Cockayne syndrome. Tanaka, K., Kawai, K., Kumahara, Y., Ikenaga, M. and Okada, Y. Somatic Cell Genetics 7: 445~455, 1981.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



コケイン症候群患者の皮膚線維芽細胞は紫外線感受性で,照射後細胞の DNA 複製(定期 DNA 合成)が障害される特徴を示す。有名な色素性乾皮症細胞は紫外線照射後の不定期 DNA 合成に欠損を示すが,コケイン症候群では正常レベルにあるという違いがある。

本研究では Camden の Human Genetic Mutant Cen11 Repository から分与をうけたコケイン細胞株 CS3BE,CS7SE,および CS1BE について相互に融合させ,定期 DNA 合成機能欠損の回復する組合せのあることが確認された。すなわち CS7SE と CS1BE の 2 株が同じ群に入り,CS3BE が異った相補性群を形成する。